

木くぼり

樹木の不思議 28



No.
62

発行
' 08-2月

株式会社 ナガイ内

住まい教室 金谷教室

【妖怪ブナの生い立ち】



秋田・山形両県にまたがる鳥海山（出羽富士）にある「あがりこ大王」

雪国のブナ林を歩くと、昔話に出てくる妖怪もどきの奇妙な形のブナの木に出会うことがあります。2～3mの高さまでは1本の太い幹なのですが、その上から急に数本の太枝に分かれ、長い首をいくつももった大蛇のような形になっているのです。山形県ではこのような形をしたブナの木を「アガリコ」と呼んでいます。アガリコは自然にできたものではなく、人が太枝部分から上を伐って利用していた結果なのです。

かつて、燃料が主に薪や炭であった時代に、雪国の山里に暮らす人々は残雪期のブナ林に入り薪炭材を伐っていました。この時期に伐られる木は、雪圧に耐えることのできるある程度以上の太さの木、なかでも雪の上に立ち上がることができる直立性の強いブナということになるのです。

樹木は幹や枝を伐られると、その刺激で成長ホルモンを分泌し、眠っている芽を起こしたり、新たな芽をつくったりして、太い枝や幹の途中から枝（後生枝）を多数発生させることがあります。このような枝は萌芽と呼ばれます。ただし、どんな太さの幹でも同じように萌芽を発生させるわけではありません。したがって、アガリコの形になったブナが最初に伐られたのは、太くなってしまった幹の途中からではなく、細くて切り易いときだったと考えられます。枝は、繰り返し同じ位置で切られましたが、幹は伐られることなく太りつづけました。ところが、1960年代以降、薪炭材の需要が急減し、アガリコは放置されました。その結果、枝はどんどん成長してしまい、現在見られるような姿に成長したのです。

参考文献：森の木の100不思議 東京書籍 ・ インターネット 他



「住まい教室」に来てみませんか？



教室の時間は、約3時間です。テキスト・ビデオを使って教室講師と楽しく勉強してまいります。一切の強制、強要はありません。お気軽においでくださいませ。

予約 (0547) 45-3501 / fax 45-3502

ホームページ <http://www.e-house.co.jp/nagai/>

e-mail kk-nagai@po2.across.or.jp (メールでの予約もOK!です。)

新聞記事の紹介

木の家の力

老後は守られ暮らしたい
徘徊や不定愁訴も収まる

ある編集者の90歳になるお母さん、内臓系の病で入院となった。孝行息子は個室を奮発したが、感謝どころか、心臓が苦しい、胸が痛い、息ができない「帰る、帰る」の大騒ぎ。医師は首をかしげるばかり。心臓は異常ないんですがねえ。「まったく、わがままなんだから...」とお医者さんの大反対を押し切り退院させた。そしたら、けろっとして心臓のしの字もない。元気になった。

その話を聞いてから数年して、安いビジネスホテルのシングルに泊まった私。夜中に心臓が苦しくなった。胸が痛い、息ができない。窓は開けなかったのに、浴室の戸を開け換気扇を回して一夜をしのいだ。翌日外に出て、ふと気が付くと心臓なんてどこも痛くなかった。念のため検査したが異常なし。その後何回かホテルの狭い部屋で胸が激しく痛む経験をした私、ふと、編集者のお母さんの話を思い出した。もしかしたら、コンクリートの壁が、彼女の体質に合わなかったんじゃないかしら。私もまたそうなのだ。固い壁、狭い部屋への潜在的な恐怖感もあるかもしれない。さらに最近、ある特別養護老人ホーム施設長からこんな話を聞いた。「民家を借りて、分園というのを始めたんです。その頃徘徊や不定愁訴の多い方がいまして、そちらに入ってもらったんです。そうしたらぴたりと症状が収まって。木の家の力でしょかね。」

これを聞いて、胸に落ちるものがあった。老後どこに住むか悩んでいた私、木の家を耐震構造にして住み続けよう。ご飯の炊ける匂いのところ、味噌汁の香りの立つところに。木の家の力に守られて。

ノンフィクション作家 沖藤 典子

島田市 M邸 木工事・外装工事等 順調です。

また、島田市 H邸にて改築工事進行中です。

まもなく完了の予定です。

次号にてご紹介したいと思います



株式会社 ナガイ 島田市牛尾510-2 TEL: 0547-45-3501